

本光寺 飛龍 仏教壮年会報

婦人会だより 合同版

2008(平成 20)年

11 月発行 No.53

● 次第に秋も深まり、木枯らしに、落ち葉が舞うようになって来ました。10月25・26日の報恩講お手伝いありがとうございました。21日からの掃除から始まり、お飾り、当日の準備・後片付け、いろんなところに皆さんの力があり、いい法要が出来ました。今年の新企画、お逮夜の音楽法要・ミニコンサートはいい雰囲気でおこなわれ、おまいりの人からお褒めの言葉を頂戴いたしました。ご講師の本持先生からもアットホームな雰囲気がよかった。このような寺院にしたいと感じたとお手紙をいただきました。これからもご協力お願いいたします。

仏壮例会のお知らせ

11 月 29 日(土)

午後 6 時より

カレンダー発送準備

終了後例会

会場:本光寺

年会費まだの方:3000 円

会 費:2000 円

出欠の連絡は同封のはがきで
お願いします



● 仏壮例会を別欄の通りおこないます。年末のカレンダー発送作業は例会前におこないますので、ご協力をお願いいたします。なお、**例年のヌーボーの会は近年参加者が減少していますので、今年は中止して、企画を練り直したい**と思います。何かご意見をお願いいたします。

● お逮夜の音楽法要・ミニコンサートですばらしい合唱で楽しんでいただいた「ひかり合唱団」が団員を募集しています。とても上手なので私には無理だと思われるかもしれませんが、楽譜が読めるのは数人しかありません。堀内先生の教え方が上手なのでついていってます。声が出ればどなたでも大丈夫です、ぜひご参加ください。

次の練習は 11 月 19 日水曜日午後 7 時から 9 時までです。気楽に様子を見に来てください。

仏壮仏婦 会員募集

どなたでも入れます
お申し込みは
本光寺まで

仏婦研修会のお知らせ

郡部婦人会との合同研修会をおこないます。
会場は門徒会館 日程は 2 月を予定
詳細はまたご案内いたします。



だいひむけんじょうしょうが
「大悲無倦常照我」

竹田 嘉円 広島県・明国寺住職
月参りのおつとめが終わって、私が帰ろうとした時、

「私、もう何にも言わんのんです」
と、お参りのご縁に遇ってくださった女性がポツリと言われました。

私は何のことが全くわからなかったので、

「え、どうされたんですか。よかったらどう
いうことか教えてもらえませんか」
と尋ねました。

するとその女性は、

「だって、夫に一言『私はこう思うけど……』
って自分の意見を言うのと、『おまえは黙っとけ。
わしの言うこと聞いとったらそれでええんじ
ゃ』って、いつも上から目線で偉そうに言うん
です。だから私、夫にもの言うのに疲れたんで、
もう何も言わんことにしたんです」

それで私が、

「ああ、そうですか……。お
つれあいさんが、あなたの言う
ことを全然聞いてくれないん
ですね」
と言うと、

「そうなんですよ住職さん。
どう思いますか」
と、その女性は少しあきれたよ
うな声で言われました。

私はどう答えていいかわからず、

「う〜ん。しんどい思いをされているんです
ね」と、力なく答えるのが精いっぱいでした。

私は、そのご門徒のお宅を後にして、お寺に
帰る道すがら「そういえば、私も、最近つれあ
いとあんまり会話をしてないなあ」と心の中で
つぶやいていました。人は自分の思いを受けと
めてもらえず、自分の言うことを認めてもらえ
なくなると、人とつながっていくことが嫌にな
るのだなと、つくづく考えさせられました。

私たちが、日頃よくおつとめする「お正信偈」
の中に「大悲無倦常照我」というご文がありま
す。

「無倦」とは、「疲れて嫌にならない。あき
らめない」という意味ですから、「大悲無倦常
照我」とは、「阿弥陀さまは大きなお慈悲のこ
ころで、決して疲れたり、嫌になったりせず、
常にとぎれることなく私たちのありさまをあ
たたくく照らしてくださる」という意味にな
ります。

ここで私が言いたいのは、「無倦」というこ
とです。

ご門徒の女性が、おつれあいの態度に疲れ、
嫌になり、口をききたくなくなったように、も
しかしたら阿弥陀さまも、この私の毎日のあり
さまをご覧になられたとき「こいつは、どうし
ようもないやつだ。私は疲れた。こいつを慈悲
のこころであたたかく照らすのはもうやめよ
う」と思われたでしょうか。

答えは、もちろん「ノー」です。

阿弥陀さまは、私がどんなに愚かなありさま
をしていても、いやむしろそうだからこそ、「本
当のことに目を覚ましておくれ」とこの私に喚
びかけながら、私をあきらめることなく、常
にお慈悲のこころであたたかく照らしてく
ださるのです。

だから、私の力では遇えるはずのない阿弥陀
さまに、今、出遇うことができたのです。

私は、阿弥陀さまの光明には、「明るく照ら
す」というのはたらきと、「あたたかく育む」と
いうのはたらきがあると受けとめています。

私の心が阿弥陀さまの光明によ
って明るく照らされると、自分だけ
が正しいと思い込み、自分と自分の
違う人を遠ざけ、非難しては他人の
思いを聞こうとしない独善的で愚
かな私のありさまが見えてきます。
それは、あのおつれあいと同じ姿が、

私の中にもあるということが見えてくること
です。

また、阿弥陀さまのあたたかい光明に照らさ
れると、自分だけが正しいとかたくなに思い込
む独善的で愚かな私の心が、だんだんと柔らか
くなり、自分自身を深く省みて、少しずつでも
姿勢を正していこうという私に育まれていき
ます。そこには広い視野を持ち、思いの異なる
人と共に生きていくことの大切さが知らされ
ます。

この私は、放っておくと愚かを愚かと知らない
まま、人生を何となく過ごしていたことでし
ょう。しかし、今、私は阿弥陀さまのとぎれる
ことのないあたたかい光明のはたらきにお遇
いすることによって、わが身の程を知らされ、
わが身のあり方を問いながら、阿弥陀さまと一
緒に生きる人生に方向を変えていただきました。

皆さんは、阿弥陀さまの無倦なる光明のはた
らきをどのように味わっておられますか。

(大乘 2008 年 1 1 月号より)

